

- 1 主題名 仲よく、助け合っ 内容項目 2 - (3)
- 2 資料名 「がんばって」 (出典 埼玉県道徳教育指導資料)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

本主題は、低学年内容項目2-(3)「友達と仲よくし、助け合う。」ことをねらいとしている。この内容項目は、友達関係において基本とすべき精神を述べたものである。友達との間に信頼と友情及び助け合いの精神をもった児童を育てようとする内容項目であり、おもに第3、4学年の2-(3)「友達と互いに理解し、信頼し、助け合う。」、第5、6学年の2-(3)「互いに信頼し、学びあって友情を深め、男女仲よく協力し助け合う。」に発展していく。

友達は家族以外で特にかかわりを深くもつ存在であり、遊び仲間などとして影響しあいながら生活している。また、世代が同じ者同士として、似た体験や共通の話題をもっている。そこで、低学年のうちから互いを認め合い、学習活動や生活の様々な場面を通して理解し合い、協力し、助け合い、信頼感や友情をはぐくんでいくことが大切である。

この段階においては、幼児期の自己中心性がまだ残り、友達の立場を理解したり自分と異なる考えを受け入れたりすることは難しいことも多い。しかし、学級の生活をしながら仲よく遊んだり、困っている友達のことを心配し助け合ったりする経験を積み重ね、友達のよさをより強く感じるようになる。このことを踏まえ、特に身近にいる友達と仲よく活動し、助け合うことの大切さを実感できるようにすることが重要である。

(2) 児童の実態について

本学級の児童は、学校での生活にも慣れ、学校や学級のきまりを守って生活できるようになってきた。入学直後にはあまり言えなかった「おはようございます」「さようなら」などのあいさつも、朝教室に入る時に「おはようございます」と大きな声で言って入ってくるようになった。また、欠席の友達の机を整頓したり、図工で使う材料を忘れた友達に自分の分を分けてあげたり、「一緒にやろう」と誘ってボール遊びをしたり等、友達に親切にしている姿も見られる。

一方、他の学級の担任や地域の方など、普段あまり接点のない相手には声をかけられればあいさつはするが、自分からは進んであいさつをしない傾向にある。友達に関しても、だれとでも仲よくし親切にできる児童もいるが、自分からは友達に声をかけられなかったり、逆にどのように声をかけるかをよく考えずに話した結果、友達が嫌だと思ってしまう言動をしてしまったりといった児童も見られ、課題である。児童に行った意識調査では、次のような結果であった。

〈調査日 平成22年9月2日〉

- | | | |
|---|---|--------|
| 1 | 友達がいて「よかったなあ」と思う時はありますか。
それは、どんなときですか。
休み時間、遊ぶ時、話したり遊んだりする時、引っ越してきたばかりの時 | はい→15人 |
| 2 | 入学してから、友達になった人はいますか。
どうやって友達になりましたか。
「遊ぼう」「おはよう」など声をかけて、一緒に遊んで、席替えであいさつして | はい→18人 |
| 3 | あなたのまわりに困っている友達がいたら、どうしますか。
声をかける(大丈夫、遊ぼう、どうしたの)、助けてあげる、
困っていることを聞いて教えてあげる | |
| 4 | あなたは友達にどんなことをしてほしいですか。
一緒に遊んでほしい、仲よくしてほしい、優しくしてほしい、遊びに誘ってほしい、
わからないことを教えてほしい、勉強を一緒にしてほしい、誕生日にお祝いしてほしい | |

以上のことから、児童の中では一緒に遊ぶ＝友達という傾向があることが考えられる。また、入学してから同じクラスになった子にも声をかけている児童も多く、友達の輪を広げつつある様子も見られる。さらに、困っている友達に声をかけて助けてあげようとする気持ちももち始めている。しかし、友達に対しては、多くの児童が一緒に遊ぶことを望んでおり、優しくしてほしい・わからないことを教えてほしい等の助け合いを望む児童は少数である。低学年の児童は、まだ自分本位な考え方が残っており、友達の立場を考えることは難しいことも多い。けれども、同じ学級での生活を共にしながら仲よく遊んだり、困っている友達のことを助け合ったりする経験を積み重ねることによって、友達のよさをより強く感じ、助け合うことの大切さを実感できるようにしていきたい。

(3) 資料について

本資料は、主人公のたけしが困っている友達に声をかけることで、理解し合い、助け合うことの大切さを感じ取っていくという話である。友達は児童にとって大切な存在であり、様々な場面を通して、信頼感や友情をはぐくんでいくことが大切である。学校生活に慣れてきたとはいえ、児童は「違う幼稚園だった」「家が近所でない」など、今まであまり接点のなかった児童に対してはなかなか声をかけづらい。しかし、初めて同じ班になった友達に「がんばって」と応援した、たけしの言動に共感させ、身近にいる友達の気持ちを考え、仲よく助け合うことの大切さを感じ取らせたい。

4 研修主題とのかかわりと他の教育活動等との関連

研修主題
 「生きる力」をはぐくむ小中一貫教育の推進
 ～人とのかかわりを大切に、共によりよく生きようとする子どもの育成～

(1) 研修主題とのかかわり

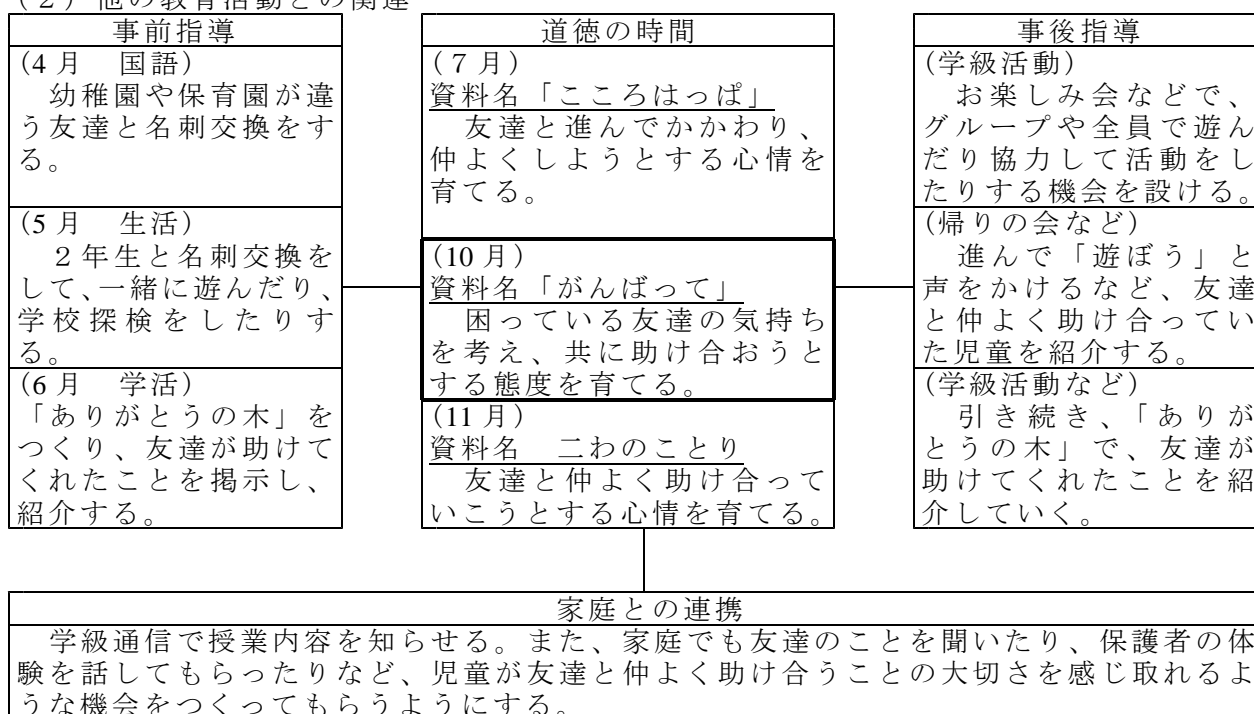
〈小中一貫教育の視点から〉

「しっかり聞こう」を意識し、話し手の方を見て、最後まで友達の発表や教師の話の聞けるようにする。また、発表する時は、聞き手によくわかるようにはっきり・ゆっくり伝えるようにする。

〈「人とのかかわりを大切に」視点から〉

本時では、あまり話をしたことがない友達とも助け合うことを通して、友達のよさに改めて気づかせるように配慮する。友達は、児童にとって互いに助け合うことのできる大切な存在である。役割演技や友達についての発表で考えたことを今後の生活の中にも生かしていけるよう、友達と助け合っていた子を紹介するなどの機会を、帰りの会や他教科の授業の中でも意図的に設定する。そして、友達のよさや仲よく助け合うことの大切さを改めて感じ取らせたい。

(2) 他の教育活動との関連



5 本時の学習活動

(1) ねらい

困っている友達の気持ちを考え、共に助け合おうとする態度を育てる。

(2) 展開

	学習活動（主な発問）	予想される児童の反応	・指導上の留意点 ☆◇評価（評価方法）	時間
導入	1 「席替え」をした時の気持ちについて話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> 誰と隣になるかわくわくする。 近くの子と仲よくできるか、ドキドキ。 〇〇さんと隣になれるといいな。 	<ul style="list-style-type: none"> 席替えをした時のことを想起させる。 今まであまり話をしたことのない友達と席が近くなることもあることに気づかせる。 	1分
展開	2 資料について条件・状況を知り、教師の範読を聞く。 3 心に残ったことを発表する。	登場人物： たけし(主人公)、えり、かなこ、まさお スタートの条件・状況： 初めての席替えの日、たけしは同じ班の友達と自己紹介をする。しかし、えりの声が小さくて聞こえない。	<ul style="list-style-type: none"> たけしの気持ちになりながら聞かせる。 範読を聴きながら、心に残ったところを考えさせる。 ☆心に残った場面を見つけ、話し合う意欲を高めることができたか。（観察・発表） 	9分
	4 主人公の気持ちを中心に話し合う。 (1) 困った顔をしているえりを見ていて、どうしていいかわからない時 ・困っているえりの気持ち (2) はっきりとした声で「えりさん、がんばって」と言った時 (3) 「たけしさん、ありがとう」と言われた時	<ul style="list-style-type: none"> どうしよう。 助けてあげたい。 あまり話したことがないから、何て言っているかわからない。 頑張ってもらいたいけど… 恥ずかしい。 笑われたら、どうしよう。 (もっと大きな声でと言われて) でも、声が出ない。 (大丈夫だよと言われて) 笑われないかな。 大丈夫だよ。 えりさん、あと少し。 大きな声を出して! ぼくも、応援しているよ。 自信をもって。 がんばって。 もうちょっとでみんなに聞こえるよ。 「ありがとう」と言われてうれしい。 言えてよかったね。 ぼくたち、友達になれたね。 えりさん、がんばったね。 	<ul style="list-style-type: none"> あまり話したことのない友達が困っている姿を見て、どうしていいかわからずにいるたけしの気持ちに共感させる。 場面絵を用い、たけしの表情からどんな気持ちが読み取れるか考えさせる。 えりが困っている理由についても考えさせ、次の柱へつなげられるようにする。 あと少しで言えそうなえりを見て、恥ずかしい気持ちを忘れ、応援したたけしの心の中を十分に考えさせる。 えりにありがとうと言われたうれしさとともに、声をかけることができた喜びを感じ取らせる。 ペープサートなどの道具を用いて役割演技を行い、児童がたけしになっ 	28分

			<ul style="list-style-type: none"> ・ぼくも、あたたかい気持ちになったよ。 	たつもりで考えられるようにする。	
見つめる	5	今日の学習を振り返り、これから友達にしてあげたいことについて話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・困っていたら「どうしたの」と声をかけて助けてあげたいな。 ・1人でいたら「遊ぼう」と誘ってみよう。 ・あまり話したことがない子にも「遊ぼう」と言ってあげたいな。 ・自分も、たけしさんみたいに、友達を助けてあげたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの生活や今日の学習を振り返り、これから友達にしてあげたいことを発表する。 ・思いつかない児童には、教師の見つけた例を紹介する。 ☆今までの生活を振り返り、友達にしてもらったことやこれからしてあげたいこと等を考えることができたか。 (ワークシート、発表)	5分
終末 あたためる	6	「友達がいてよかったな」という内容の児童の作文を紹介する。	<ul style="list-style-type: none"> ・友達っていいな。 ・これからも、友達と仲よくしよう。 ・ぼく(わたし)も、作文の子みたいに友達とがんばりたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「友達と一緒にだったからがんばれた」という内容の児童の作文を読む。 ◇友達と仲よく助け合うことの大切さを感じさせることができたか。 (発言、観察)	2分

6 評価の観点

- ☆主人公の気持ちになって、自分の考えを深めることができたか。(発言、観察)
- ◇友達と仲よく助け合うことの大切さを感じさせることができたか。(発言、観察)

7 板書計画

がんばって

でてくる人

○たけし(しゅじんこう)

○えり

○まさお、かなこ

はじめのばめん

せきがえ

はじめておなじはん

場面絵 1

「もつと大きなこえでいって。」

こまつているえりをみて、

- ・どうしよう。
- ・たすけてあげたいけど…。
- ・なんていったらいいんだろう？
- ・はずかしいな。

場面絵 2

「えりさん、がんばって。」

ちからいっぱいおうえんしたとき

- ・えりさんにおうぼうしてほしい。
- ・おうえんしてるよ。
- ・あとちよつとだよ。
- ・おおきなこえで！

場面絵 3

「ありがとう。」といわれたとき

- ・いってよかった。
- ・えりさんがよろこんでくれて、うれいな。
- ・ぼくたち、ともだちになれたね。
- ・こころがあたたかくなったよ。

ともだちっていいね

場面	キーワード	主人公の心の動き	発問・話し合い
<p>初めて席替えをして、自己紹介をする事になった場面</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・わくわくして ・みんなはじめておなじはんに… ・「新しいはんのお友だちに自分の名前を言いましょう。すきなものも…」 		
<p>顔をまっかにして、困っているえりを見ている場面</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・えりは顔をまっかにして… ・とても小さな声 ・えりはますますこまった顔を… ・たけしは、どうしていいかわかりません。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どうしよう。 ・助けてあげたいけれど、恥ずかしい。 ・あまり話したことがないから、何て言ったらいいかわからないな。 ・がんばってほしいけれど…。 	<p>○ますます困った顔をしているえりを見て、たけしはどんな気持ちでしょうか。</p>
<p>「えりさん、がんばって。」と、力いっぱい応援した場面</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「だいじょうぶだよ。」 ・下をむいていた…少しずつ顔を上げました。 ・(えりさん、あともう少し。) ・思わず心の中でさげびました。 ・「えりさん、がんばって。」 	<ul style="list-style-type: none"> ・大丈夫だよ。 ・えりさん、あと少し。 ・大きな声を出して。 ・がんばって。 ・自信をもって。 ・ぼくも、おうえんするよ。 ・もうちょっとでみんなに聞こえるよ。 	<p>○「えりさん、がんばって。」と、力いっぱい応援したたけしは、どんなことを考えていたのでしょうか。</p>
<p>「たけしさん、ありがとう。」と、えりにお礼を言われた場面</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・えりは、言いおわるとにこっとわらい ・「たけしさん、ありがとう。」 ・なんだか心がふわっとあたたかくなりました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ありがとう」と言われてうれしい。 ・言えてよかったね。 ・ぼくたち、友だちになれたね。 ・えりさん、がんばったね。 ・ぼくも、あたたかい気持ちになったよ。 	<p>○「たけしさん、ありがとう。」と言われたたけしは、どんな気持ちでしょうか。</p>

<p>①板書の工夫 登場人物や条件・状況はカードを作り、資料に入る前にわかりやすいようにした。また、場面絵も印象付けるようにした。主人公の心の変化を追っていくように、気持ちを言葉だけでなく色でも表すようにした。 児童の発言は、なるべく簡潔にポイントをしぼって書いていくようにした。 最後に見たときに、授業の流れがわかるような板書を心がけた。</p>	<p>②学習指導過程について 導入では「席替え」をした時のことを振り返ったり、アンケートの結果を口頭で話したりして、資料へとつなげるようにした。展開では、条件・状況を話した後資料に入り、心に残ったところを発表させ、柱立てをし、発問していく。途中の柱では動作化を行い、主人公の気持ちを体感させる。最後の発問では書く活動を取り入れ、「今まで友達にしてもらったこと」や「これからしてあげたいこと」を書かせた後で、終末に入る。友達と仲よく助け合っているという趣旨の児童の作文を読み、今後友達と一緒によりよく生活していこうと思えるような終末とする。</p>	<p>③発問や切り返しについて 発問(1)では、困っているえり(友達)を助けてあげたいという気持ちはもっているものの、今まであまり話したことがない友達にどんな言葉をかけてよいかわからずにいる「たけし」の気持ちに十分共感させて、発問(2)の「がんばって」と応援したところでは、言葉をかけることがえりを助けることに気づいたたけしがどんなことを考えていたかを「えりさん、がんばって」に続く形で動作化させながら、考えを深めさせたい。 切り返しとしては、どうしてよいかわからなかったたけしが、「がんばって」と応援したのはどんな気持ちからか問いかけていきたい。</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>私の授業の 観てほしい ポイント</p> </div>	